

2021/10/31-2

(うときゅういっきの「これから」 頭の痛い日々 その2) 書庫版



一つ。国、地方自治体からは補助金、支援金、給付金を一切戴いていない事。

一つ。外国人従業員の扶養家族が今後追加で4人増える事(来月から扶養補助支払1人発生確定)

一つ。輸入物価の異常な高騰(物によっては仕入価格が2倍にアップ。平均30%アップ)仮に平均単価、来店お客様数が前と全く変わらなかったとしても上記3点セットによる当社の逼迫度をご想像戴けるかと思います。

自分の性分上、余り深刻な顔をしたくない事もあるのですが、

まず外国人従業員達は

「しゃちょ、お金持ち。しんばいない」

と、やや緊張感に欠け

お客様は

「あれだけ材料を使ってあの値段。でも、いいのよ。どうせボンボンの道楽だから」

と「何があっても味は落とさない方針」を別の形に解釈し

近隣の年配専業主婦さん方達は

「それを何とかするのが経営者よね」

とおっしゃられる。

従業員達はしらないのです。

「お金持ち」どころか今や自分が「ハクション大魔王」ならぬ「借金大魔王」と化している事を。家を担保に民間から借りまくっている事。お客様もご存じないのです。

外国人従業員が以前勤めていた会社の給与は社会保険料等が含まれておらず、商品価格はそれに基づいた値付けで初めて成り立つ「安さ」である事を。

当社では社会保険料等を全て社員に支払って居るので対給与費で30%に当たるその分、給与が以前の会社に比べ増額になっているのですが、その分を価格転嫁できずにいる事を。

(値立ての基準を知らずに商売を始めて仕舞った自らの落ち度。ならば早々に訂正すれば

良いではないか、とおっしゃられるかもしれませんが、商品価格はお客様との約束事。無闇に変更はできないのです。

それに幾ら何でもプライスを一気に 30%アップは無理でしょうし)

そして近隣の長年専業主婦で暮らし、実商売に少しでも関与している職場で働いた事のない方々は知らないのです (薄々は感じていても振れたくないのです)

「何とかするにも無限回数なんてあり得ない」

という科学的だが自分にとっては不都合な事実。

で、もし仮にその方々のご主人が経営者で

「経営努力分として自分の給与を全て社員給与に宛がう事にした。明日から家は給料無しだ。それでやって呉。いいな？」

と言われたら何と答えるのでしょうか？

経営努力のしわ寄せが自分への不都合となって押し寄せてきたら。

しかし幾ら論理的に話しても最後の最後は

「しゃちょ、お金持ち」

「どうせ隠し金「あるある大事典」よ。ボンボンだから」

「いい物を安く、それが日本人でしょ。日本人なら値上げせずにその中で給料も右肩上がり当たり前よね。今の人は努力が足りないのよ」

と。

商品価格が上昇しそれに伴って給与が上がる「良いインフレ」にならない限り (消費者であると同時に生産者でもある我々は) 誰も「元気にはなれない」

是が経済の好循環の為の必須条件であると思うのですが。

「…」

又々頭が。

注) 写真：前回同様